

都道府県名	青森県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	稲垣村立稲垣中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	56	52	52	1	161	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ力」を身につけた生徒の育成
--------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

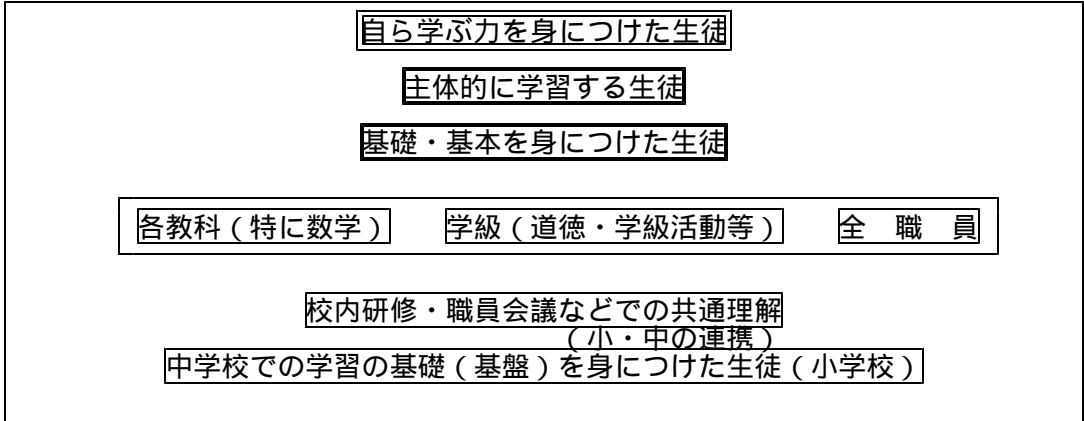
<p>全学年・全教科（数学）          全教科を対象とするが、特に数学が生徒によって理解度に差の出やすい教科であるため、数学を中心にして研究を進める。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ          「自ら学ぶ力」を身につけた生徒の育成          ～ 基礎・基本の定着を中心に ～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>基礎・基本を定着させるために、各教科の授業において、学習目標および学習方法を生徒に明確に示し、指導過程の中で基礎・基本の位置づけを明確にする。さらに、生徒の理解度に応じて個別に指導することによって、基礎・基本の確かな定着を図る。このようにして基礎・基本を定着させることによって、学習への意欲を喚起し、「自ら学ぶ力」を身につけさせるための土台を築くことができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 校内研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を定着させるための指導過程・指導方法の工夫</li> <li>・提案授業と授業公開推進月間による授業研究</li> <li>・諸検査・テスト結果の分析をもとにした指導方針の明確化</li> </ul> <p>(2) 数学科を中心とした個に応じた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望を取り入れた、習熟度別・少人数学習（2、3年数学）</li> <li>・T・Tによる授業（1年数学）</li> <li>・「学校家庭教師制度」による、学習相談と個別指導（1学年）</li> </ul> <p>(3) 学級での取り組みの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習（10分間）の活用（基礎的事項の確認と定着）</li> <li>・朝読書（10分間）の推進（読書への親しみと集中力の育成）</li> <li>・「生活の記録」による、学習のふり返りと持ち物や家庭学習課題の確認</li> <li>・帰りの会前の「学習タイム」の活用と「まとめテスト」の実施</li> </ul>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ力」を身につけた生徒の育成 ～ 主体的な学習場面の工夫を中心に ～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>基礎・基本の理解度が増し学習への意欲が高まっても、それだけでは「自ら学ぶ力」は育たない。授業において、基礎・基本をもとにして思考を深め表現する、あるいは、生徒が自ら課題を見つけ解決に取り組むなど、主体的な学習場面を指導過程の中に積極的に取り入れることによって、「自ら学ぶ力」を身につけさせることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 校内研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的な学習活動ができるような授業の工夫</li> <li>・ 提案授業と授業公開推進週間による授業研究</li> <li>・ 諸検査・テスト結果の分析をもとにした指導方針の明確化</li> </ul> <p>(2) 数学科を中心とした個に応じた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別学習</li> <li>・ 少人数学習</li> <li>・ T・Tによる授業</li> <li>・ 「学校家庭教師制度」による、学習相談と個別指導（1学年）</li> </ul> <p>(3) 学級での取り組みの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 朝学習（15分間）の活用（基礎的事項の確認と定着）</li> <li>・ 朝読書（10分間）の推進（読書への親しみと集中力の育成）</li> <li>・ 「生活の記録」による、学習のふり返りと持ち物や家庭学習課題の確認</li> <li>・ 帰りの会前の「学習タイム」の活用と「まとめテスト」の実施</li> </ul>
----------------	---

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

【全校数学科および全校全教科の 観点別学習状況の学期ごとの比較】		1 学 期			2 学 期		
		A	B	C	A	B	C
数 学	数学への関心・意欲・態度	6.2	2.6	1.3	6.3	2.8	9
	数学的な見方や考え方	2.9	4.9	2.2	2.9	4.8	2.3
	数学的な表現・処理	2.6	6.1	1.4	2.9	5.6	1.4
	数量・図形などについての知識・理解	3.4	4.3	2.3	3.3	4.4	2.3
4つの観点の合計		3.8	4.4	1.8	3.9	4.4	1.7
全 校 全 教 科		3.5	5.2	1.3	3.8	5.1	1.1

(数字は%、小数点以下四捨五入)

「数学への関心・意欲・態度」のC段階が減ってきており、少人数指導、T・T授業による、個に応じた指導の効果が少しではあるが表れてきている。関心・意欲・態度の高まりを他の観点にも生かしていきたい。

全校体制による、基礎・基本の定着を目指した取り組み（授業、朝学習、学習タイム）を実施し、生徒の学習への意識が徐々に向上している。

校内研修をはじめとして教師の学力向上を目指しての意識が高まり、授業を参観し合う機会を増やして、授業改善への取り組みを積極的に行った。

### 2. 今後の課題

<p>学力向上フロンティアと校内研修との関わりをもっと明確にし、もっと焦点を絞って研究を進める。</p> <p>少人数学習、T・Tの授業のあり方について、より効果的に学習を進めるための工夫をする。</p> <p>具体的な取り組みと生徒の変容との関わりについて、できるだけ明らかにする。</p>
--

### 学力把握のための学校としての取組

<p><b>教研式標準学力検査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の基礎・基本の定着度を客観的に把握する目的で、年度末に1、2学年新年度始めに新1学年を対象に実施している。</li> </ul> <p><b>教研式自己教育力指導検査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人、学級、学年、学校というそれぞれの単位について、どのような点に指導の重点を置けば自己教育力が育つかを明らかにするために実施している。1、2学年を対象とし、小学校と連携して行っている。(6月に実施)</li> </ul> <p>学期ごとの学習状況の評価（各学年各教科の、観点別学習状況の評価および評定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年各教科の学期ごとの学習状況について、全体的な傾向を把握し、授業改善のための参考とする。</li> </ul> <p>授業中の取り組みの様子について、教師の観察による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数字では見えない生徒の取り組みの様子について、各教科ごとに視点を決めて学期ごとに評価している。特に、主体的に学習に取り組んでいるかどうかを中心に調べている。</li> </ul> <p>まとめテストの結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校で取り組んでいるまとめテストの結果を集計し、基礎学力の定着度を把握するための参考としている。</li> </ul>
---

